

DP (教育目標)

- DP1 日本語教育、翻訳通訳、TESOLのいずれかの分野において、体系的知識を習得し活用することができる。
- DP2 言語、言語教育、翻訳・通訳に関する研究方法を理解し、日本語教育、翻訳通訳、TESOLのいずれかを軸に、国際的かつ学際的視野に基づく研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。
- DP3 グローバル社会におけるより良き社会のあり方と発展を考察するとともに、国際社会とその動向に目を向け、自文化と他文化に係る深い理解に基づく視点を持って専門的な知を追究することができる。
- DP4 専門とする分野の必要に応じて、修得した高度な語学力を十分に発揮できるとともに、社会の様々な場面において、高度な異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

科目群	科目名	単位数	科目区分	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	SDGs該当項目
基礎論	グローバルコミュニケーション基礎論 (研究法・調査法)	2	選択	日常の学習や研究で得た発想や発見を修士論文や課題報告書の中で考察するには、データ・資料の収集と分析のような実証的な研究方法を用いなければならないことがある。この授業では、言語・コミュニケーション研究の基礎となる調査・研究の方法の中からいくつかを取り上げ、その概要と適用例を検討する。そして、それが自分の研究デザインや論文作成にどのように役立つかを考える。学期末には、自分の研究テーマとそれに合う調査方法について各自が調べ、発表する。		◎			
	グローバルコミュニケーション基礎論 (翻訳学通訳学)	2	選択	はじめて学問として翻訳と通訳の世界に足を踏み出し、基礎的な概念から翻訳と通訳の種類やプロセスを学び、実践さらに研究としての翻訳世界を覗き、職業としての魅力を知ることによって、将来自分がどのような翻訳者あるいは通訳者になりたいのか、どのような研究テーマを選びたいのか、そのヒントを得ることを到達目標とする。 異文化コミュニケーションの視点から翻訳と通訳の基本的な概念を導入する。職業としての翻訳者・通訳者の役割からキャリア形成に必要な資格試験などを紹介する。実践の他、学問・研究分野としての翻訳学と通訳学へのアプローチを説明する。最後に、役に立つ隣接分野に触れることによって、翻訳者・通訳者の将来図を描く手助けをする。		◎			
	グローバルコミュニケーション基礎論 (アカデミックライティング)	2	必修	修士論文や課題報告書では、調査結果やそれに対する考察を明快に表現することが必要になる。この授業では、そのために必要な概念や表現方法を学ぶことを目的とし、論文の構成、パラグラフライティングの方法、論理的文章で用いられる諸表現、先行研究の要約、参考文献の引用と提示方法、論文要旨の書き方などを学ぶ。その他、必要に応じて文字表記で注意すべき点についても触れる。それによって、適切な情報を相手に的確に伝え、また、自分の論を展開できるようにする。				◎	
専門共通	グローバルコミュニケーション研究 (言語学)	2	選択	The aim of this course is to develop students' understanding of linguistics to give firm base for EFL & ESL instruction. The course will cover basic principles of speech production, including Classic Phonetics and contemporary theories. The course will then focus on speech perception, including active and passive forms, roles of listeners, and both current and past theories of perception.			◎		
	グローバルコミュニケーション研究 (第二言語習得論)	2	選択	第二言語習得研究の成果を言語教育の観点から整理し、言語教育への適用の方法を学ぶと同時に、自身の第二言語学習を振り返り改善するための参照点を得ることを目指す。毎回の授業に先立って授業範囲の要約を作って授業に参加する。授業では講義の前に、ペアを作って互いの要約について検討し、能動的に講義が受けられるようにする。講義中は積極的な質問を奨励する。講義後に授業内容についての振り返りを書いて提出する。マナバに提出した要約と振り返りは相互閲覧・相互コメントができる設定にすることで、仲間の書いたものを積極的に見て相互にコメントをすることを奨励する。			◎		
	グローバルコミュニケーション研究 (異文化間コミュニケーション論)	2	選択	グローバル化が進む社会では、多文化共生と異文化コミュニケーションが重要な課題となる。そこでまず、異文化コミュニケーションとは何かを議論する。その上でコミュニケーションモデル、コミュニケーション・スタイル、非言語コミュニケーション、価値観、アイデンティティ、異文化適応、アコモデーション理論など、この分野でよく論じられてきたテーマについて検討していく。それをもとに履修者が自分の問題意識に応じたテーマを選び、先行研究を探して発表と討論を行う。			◎		
	グローバルコミュニケーション研究 (日中対照言語学)	2	選択	日中言語の対照研究をするために、必要な日本語と中国語の基礎的な一般言語学の知識を学びながら、事例研究の文献を読み、語彙・文法・表現・言語行動などの分野における両言語それぞれの特徴を理解すると同時に、対照言語学的な研究方法を理解していく。また、受講者は自身の第二言語学習や翻訳・通訳の経験に基づいて、問題点を取り上げ、対照言語学的視点から中国語と日本語の特徴を多角的に分析・考察できるようにすることを目標としている。			◎		
	グローバルコミュニケーション研究 (日本文化概説)	2	選択	日本の現代詩（当時は新体詩と名付けられたが）はどういう環境あるいは状況の下で誕生したか、日本の現代詩と域外（外国、特にヨーロッパとの関係性）はどういう影響関係があったか。百数十年の歴史における日本の現代詩はどういう変遷を経たか、各時代にどんな代表的な詩人が現れてきたか。授業を通して現代詩を理解するだけでなく、文学史の基礎知識も身につける。毎回授業で取り上げる現代詩作品を精読するとともに、作品それぞれの時代背景について詳しく説明する。必要の時に詩人の映像資料を見る。			◎		
	グローバルコミュニケーション特別講義A	2	選択	本講義では、メインテキストを読み、異文化コミュニケーションの概念、日本国内外で起きている誤解やすれ違いなどの、異文化摩擦の要因を理解する。演習時間には、学習者自身の留学経験に基づいて、議論を行い、グローバルコミュニケーションについて考える。			◎		
	グローバルコミュニケーション特別講義B	2	選択	本講義では、談話研究の多様性とその意義を踏まえた上で、対人コミュニケーション論としてのディスコース・ポライトネス理論とその新展開を扱う。まずは、既に基本理論となったB&Lのポライトネス理論の理解を深め、内外における敬語研究・ポライトネス研究を考える。その上で、B&Lの理論の問題点、その後の様々なアプローチを概観し、「ディスコース・ポライトネス」という新概念を導入して構想された「ディスコース・ポライトネス理論」（宇佐美、2001;2002）について解説する。さらには、これから来る人間とロボットとの共生社会も意識して、対人コミュニケーションのみならず、人間とロボットのコミュニケーションも含めて、より広い観点からグローバルコミュニケーションというものを考える。			◎		

日本語教育分野	日本語教育研究(意味論・語用論)	2	選択	この授業では、語用論を中心に学ぶ。まず、前半は、基本的な語用論の概念について学び、後半は、言語行為&ポライテネス理論を中心に学ぶ。また、中間言語語用論にもふれ、日本語学習者を被験者として研究した論文も扱う。そして学期末には、文献研究を行う。担当者は毎回レジュメを作成すること。学期末レポートは、推意、関連性理論、言語行為、丁寧さの公理(リーチ)協調の原理(グライス)、ポライテネス理論(ブラウン&レビンソン)、ディスコースポライテネス(宇佐美)からテーマを選び、文献調査を行う。毎回の授業の事前・事後学習は、4時間以上の学習が期待されている。	◎	○			4
	日本語教育研究(日本語教授法)	2	選択	この授業の到達目標は、現在の日本語教育事情を踏まえた上で日本語教授法を学ぶことである。まず、20世紀初頭から現在に至る主な教授法理論を、実践の場でどう役立てるかを考えながら学ぶ。次に、世界とつながる日本語教育の動向を概観する。学期末には、現在日本における日本語教育で実際に行われている教授法について各自調べた(自主的に行う外国人に対する日本語教育の授業参加観察も含む)上で、学んだ教授理論とそれを結び付けてレポートを書く。この授業では、研究力と実践力のどちらも身に付けることを目標としたい。	◎	○			4
	日本語教育研究(分野別日本語教育論)	2	選択	1. 内容重視の批判的言語教育(Critical Content-Based Instruction)の理論と実践を学び、「内容」をキーワードとした日本語教育の現状の在り方を模索する。 2. 日本語教育の現場で教育実践をデザインする際のクリティカルな視座を得ることができる。内容重視の批判的言語教育(日本語教育を含む)に関する文献を読みながら、社会・慣習的な前提を問い直し、その維持や変革に関与する意識・視点・姿勢・態度の育成を目指す視座を踏まえ、日本語教育を、社会とのつながりを意識した教育という観点から議論する。 授業は講義形式ではなく、演習形式で行う。	◎	○			4
	日本語教育研究(日本語教育実践研究)	2	選択	この授業の狙いは理論と実践の統合である。日本語教育における理論に基づいてどのように研究するのか、そしてどのように実践に結びつけるのかを学ぶ。まず、主要な理論を概観し、実際の教室でそれがどのように生かされているのかを、授業見学や実習を通して観察し、分析する。また、研究論文で研究方法や調査法なども学ぶ。学期末には、日本語学習者からのデータを収集し分析・考察を加えた論文形式のレポートを完成させる。なお、また、日本語授業見学や実習は、授業時間以外の課題とする。	◎	○			4
	日本語教育研究(日本語習得研究)	2	選択	この授業では、第二言語習得論の諸研究を踏まえた上で日本語における習得研究を扱う。まず、第二言語習得に関する専門知識を学んだ上で日本語習得に関する論文でその専門知識をさらに深く学んでいく。それぞれが興味のあるトピックを1つ選び、先行研究をいくつか取り上げ深く学ぶ。トピックの選択は、教員と話し合いながら決めて行く。また、レジュメを作成する担当者は、簡潔にまとめること。まとめ方などは、初めの授業で解説する。事前・事後学習には4時間以上の学習が期待される。	◎	○			4
	日本語教育研究(日本語文法研究)	2	選択	本講義では日本語文法を3つの視点からとらえる。日本語学からの視点、日本語教育からの視点、そして日本語学習者からの視点である。日本語学における文法の基礎的研究を概観するとともに、日本語教育で必要とする文法とは何か、いわゆる「日本語教育文法」について考える。その際、日本語教育で一般的に教えられる文法項目とその内容、学習者が誤用をおかしやすい文法項目と誤用の分析、4つの技能における教育文法についても取り上げ、日本語教育の現場からのニーズに応えるための、「日本語教育文法」の具体的な内容について討論する。	◎	○			4
	日本語教育実習	2	選択	日本語教育実習では、まず、ディスカッションをしながら実際の授業の流れを学ぶ。実際の日本語初級教科書を使用し教案の立て方、授業の導入の仕方や教授法などの具体的な方法を学ぶ。そして、授業内で模擬実習を行う。そのあと主に授業見学→授業準備→実習→評価(反省会)という流れで学内実習が進む。授業の振り返りの自己点検では意見交換をしながら授業を振り返り、次の実習に役立てる。この授業の目標は、これらの積み重ねによってこの授業後はすぐに現場で教えられる力を身につけることである。実習をするために教案の立て方、教材の選び方など実践的に学ぶ。また、留学生とのチューター制度で毎週、報告書を提出してもらう。授業の事前・事後学習には合計4時間程度の課題がある。	○			◎	4
翻訳の理論と方法A	4	選択	機械翻訳がいくら発達しても、完全に人工翻訳を取って代わることはないと思われる。機械翻訳と人工翻訳が共存の時代だからこそ、より高いレベルの翻訳能力が翻訳者に求められる。本講義では、翻訳に関する諸理論や日中翻訳の方法を勉強し、言語能力と異文化間コミュニケーション能力をはじめとする日中翻訳能力を高めていく。	◎	○				
翻訳の理論と方法B	2	選択	翻訳史の研究、翻訳批評、翻訳実践、翻訳論などのテーマ別に、講義と演習を通して、翻訳の実践と研究方法の基礎能力を身につける。上記のテーマに基づいて、基本的な知識と研究現状を紹介し、受講者に、資料の調査と翻訳の宿題をやったうえで、その所感について発表してもらう。	◎	○				
日英翻訳(時事・実務)A	2	選択	この授業では、翻訳の訓練を通して日英の翻訳技能を習得することを目指す。将来国際的な舞台において、さまざまな分野での翻訳ができるための技能を修得することを目的とする。特に時事問題の翻訳を通して、社会問題に注目する。日英の新聞記事を比較し、専門用語を習得するとともに、時事問題の背景に対する知識を深める。授業はディスカッションを通して、より良い翻訳を創作する。受講者は基礎的な英語力を備えていることが望ましい。	◎	○				
日英翻訳(時事・実務)B	2	選択	「日英翻訳(時事・実務)A」に引き続き、この授業では、翻訳の訓練を通して日英の翻訳技能を習得することを目指す。将来国際的な舞台において、さまざまな分野での翻訳ができるための技能を修得することを目的とする。特に時事問題の翻訳を通して、社会問題に注目する。日英の新聞記事を比較し、専門用語を習得するとともに、時事問題の背景に対する知識を深める。授業はディスカッションを通して、より良い翻訳を創作する。受講者は基礎的な英語力を備えていることが望ましい。	◎	○				

日英翻訳（文芸・評論）A	2	選択	翻訳は異なる言語間の単なる単語の置き換え作業ではなく、翻訳対象となる言語の背景にある文化や発想法の理解を必要とする作業である。この講義では、基礎的な翻訳訓練の方法を知り、日英の翻訳技能を習得することを目指す。特に小説・エッセイの翻訳を通して、文化や価値観の違いに気づくことを目的とする。翻訳文献を比較することにより、日英翻訳の技術を習得し、自ら翻訳することによりその技術を高める。将来翻訳者を志望する学生のみならず、英語力の向上が目的の学生にとっても有益である。	◎	○			
日英翻訳（文芸・評論）B	2	選択	翻訳は異なる言語間の単なる単語の置き換え作業ではなく、翻訳対象となる言語の背景にある文化や発想法の理解を必要とする作業である。「日英翻訳（文芸・評論）A」に引き続き、この講義では、基礎的な翻訳訓練の方法を知り、日英の翻訳技能を習得することを目指す。特に小説・エッセイの翻訳を通して、文化や価値観の違いに気づくことを目的とする。翻訳文献を比較することにより、日英翻訳の技術を習得し、自ら翻訳することによりその技術を高める。将来翻訳者を志望する学生のみならず、英語力の向上が目的の学生にとっても有益である。	◎	○			
日中翻訳（時事・実務）A	2	選択	国際化という大きな流れの中、政治、経済、文化など各分野における国家間の交流がますます盛んになっているため、翻訳に対する需要も非常に高くなってきている。高度な科学技術の発達を背景に機械翻訳が大いに利用されている現在でも、機械翻訳のカバーできない部分において、機械翻訳以上の力を持つハイレベルの翻訳人材がむしろ必要となっている。本講義は、特に時事と実務面での日中翻訳人材の育成を目標とし、適格な翻訳者になるに必要な言語・文化・翻訳・異文化コミュニケーションその他関係理論を習得し、また、日中翻訳実践を通して、日中翻訳の力を高める。	◎	○			
日中翻訳（時事・実務）B	2	選択	国際化という大きな流れの中、政治、経済、文化など各分野における国家間の交流がますます盛んになっているため、翻訳に対する需要も非常に高くなってきている。高度な科学技術の発達を背景に機械翻訳が大いに利用されている現在でも、機械翻訳のカバーできない部分において、機械翻訳以上の力を持つハイレベルの翻訳人材がむしろ必要となっている。本講義は、特に時事と実務面での日中翻訳人材の育成を目標とし、適格な翻訳者になるに必要な言語・文化・翻訳・異文化コミュニケーションその他関係理論を習得し、また、日中翻訳実践を通して、日中翻訳の力を高める。	◎	○			
日中翻訳（文芸・評論）A	2	選択	取組むテーマと研究対象を徹底的に深化していく。原作と訳文を対照しながら精読した上で、翻訳がもたらした落差を究明する。小説、詩、評論などを通して、文芸全般の本質を把握する。毎回授業で用意した資料を丁寧に説明するとともに、言語と翻訳の関係性について詳しく説明する。不定期的に翻訳実践を行う。二つの言語によるテキストを理解し、合理的な翻訳方法を身につける。	◎	○			
日中翻訳（文芸・評論）B	2	選択	取組むテーマと研究対象を徹底的に深化していく。原作と訳文を対照しながら精読した上で、翻訳がもたらした落差を究明する。小説、詩、評論などを通して、文芸全般の本質を把握する。毎回授業で用意した資料を丁寧に説明するとともに、言語と翻訳の関係性について詳しく説明する。不定期的に翻訳実践を行う。二つの言語によるテキストを理解し、合理的な翻訳方法を身につける。	◎	○			
日韓翻訳（時事・実務）A	2	選択	日韓の社会・経済・政治に関する文章を題材にし、翻訳の基礎スキルを習得する。まず、すでに翻訳がなされている文章について原文と日本語訳文を比較しながら、翻訳の仕方について理解し、同時に社会分野に頻出する用語を覚える。特に、誤訳や意識に注意し、正確で誤解のない翻訳というのはどのようなものか考える。次に、履修者が実際に翻訳することで、翻訳のスキルを身につけ、主な教材として、日本と韓国の新聞（朝鮮日報や東亜日報など）の社会・経済・政治欄に掲載された文章を扱う。	◎	○			
日韓翻訳（時事・実務）B	2	選択	日韓（韓日）翻訳の時事・実務分野における自身の研究テーマ・課題を定めた上で、必要な翻訳を実践する。その過程で個人の翻訳技術を高め、より良い翻訳について議論し、翻訳・翻訳研究についての理解を深める。	◎	○			
日韓翻訳（文芸・評論）A	2	選択	日韓の文化に関する文章を題材にし、翻訳の基礎スキルを身につける。まず、すでに翻訳がなされている文章をとりあげ、原文と日本語訳文を比較しながら、翻訳の仕方について理解する。その中で、誤訳や意識、漢字語（日本語の漢語に相当）の意味・用法の違いなども検討する。次に、履修者が実際に翻訳することで、翻訳のスキルを身につけ、併せて文化分野特有の配慮事項について考える。主な教材として、新聞（朝鮮日報や東亜日報など）の文化面と歴史面に掲載された文章、韓国の生活習慣や衣食住文化について書かれた図書を扱う。	◎	○			
日韓翻訳（文芸・評論）B	2	選択	日韓の文化に関する文章を題材にし、翻訳の基礎スキルを身につける。まず、すでに翻訳がなされている文章をとりあげ、原文と日本語訳文を比較しながら、翻訳の仕方について理解する。その中で、誤訳や意識、漢字語（日本語の漢語に相当）の意味・用法の違いなども検討する。次に、履修者が実際に翻訳することで、翻訳のスキルを身につけ、併せて文化分野特有の配慮事項について考える。主な教材として、新聞（朝鮮日報や東亜日報など）の文化面と歴史面に掲載された文章、韓国の生活習慣や衣食住文化について書かれた図書を扱う。	◎	○			
通訳の理論と方法A	2	選択	通訳学に関する基本概念、通訳学の研究史、通訳学研究の理論を体系的に学び、通訳研究を行うための基礎的な知識を習得する。研究事例を学び、自らの関心に基づいて研究を行うための理論的枠組みを構築できる。通訳学に関する基本概念、通訳学の研究史、通訳学研究の理論を体系的に学び、通訳研究を行うための基礎的な知識を習得する。また、通訳の理論に基づき行われた研究事例を学び、自らの関心に基づいて研究を行うための理論的枠組みを構築できるように指導する。	◎	○			
通訳の理論と方法B	2	選択	通訳の原則、通訳学研究の方法論、通訳者の役割などを体系的に学び、通訳研究を行うための基礎的な知識を習得する。また、通訳学の隣接分野、通訳研究の方向性などの知識も取り入れ、通訳プロセスの理解を深めることを目標とする。通訳の質における行動要素、通訳研究の方法論などの知識を習得し、通訳者の役割、通訳者の倫理規範など専門職としての実践からの知見を学ぶ。また、通訳学の隣接分野、通訳研究の方向性などの知識も取り入れ、通訳学の主たる傾向と将来への展望を検討する。	◎	○			

日中通訳(観光・コミュニティ) A	2	選択	観光・コミュニティ通訳の現状と動向を習得し、観光・コミュニティを含めた幅広い分野の逐次通訳のトレーニングを通じ、通訳者に必要なスキルを養う。 通訳案内士、医療通訳技能認定試験の概要を説明し、観光及び医療、司法、行政などコミュニティ通訳の現状を紹介する。実際の通訳現場を想定して作成した教材と、政府要人が実際に行った記者会見などの教材を用いて、通訳者に必要なスキルを高める。事前に関連テーマについて幅広い調査を求め、授業後、クラス内のパフォーマンスと自習を振り返り、良かった点と改善すべき点をノートでまとめる。	◎	○			
日中通訳(観光・コミュニティ) B	2	選択	前半は観光・コミュニティを含めた幅広い分野の逐次通訳のトレーニングを通じ、通訳者に必要な高度なスキルを養う。後半は同時通訳を導入し、同時通訳の基本的なスキルを身につけることを目標とする。医療通訳技能認定試験の概要を説明し、医療、司法などコミュニティ通訳の現状を紹介する。実際の通訳現場を想定して作成した教材と、政府要人が実際に行った記者会見などの教材を用いて、通訳者に必要なスキルを高める。事前に関連テーマについて幅広い調査を求め、授業後、クラス内のパフォーマンスと自習を振り返り、良かった点と改善すべき点をノートでまとめる。	◎	○			
日中通訳(会議・ビジネス) A	2	選択	通訳者に必要とされる基礎能力（リスニング力、スピーキング力、記憶保持力、瞬発力、推察力など）を育成し、通訳者に必要とされる異文化コミュニケーション能力を強化する。政治、外交、経済、環境などのテーマについて、十分なレベルで逐次通訳ができるようになることを目標とする。国際会議や時事ニュースなど政治、外交、経済に亘るテーマについて音声、映像メディアを教材として活用し、専門性の高い表現や語彙を身につける。シャドウイング、サイト・トランスレーション、ノートテイキングなど実践トレーニングを繰り返して行うことで、逐次通訳に必要な能力を鍛えていく。通訳現場に近い雰囲気での授業を行い、通訳のマナー、目指すべきパフォーマンスなどを指導する。	◎	○			
日中通訳(会議・ビジネス) B	2	選択	通訳者に必要とされる基礎能力（リスニング力、スピーキング力、記憶保持力、瞬発力、推察力など）を育成し、通訳者に必要とされる異文化コミュニケーション能力を強化する。前半は、ビジネス、IT、科学技術などのテーマについて、十分なレベルで逐次通訳ができることを図り、後半は同時通訳のトレーニングを導入し、同時通訳の基本的なスキルを身につけることを目標とする。 ビジネス、IT、科学技術などに亘るテーマについて音声、映像メディアを教材として活用し、専門性の高い表現や語彙を身につける。シャドウイング、サイト・トランスレーション、ノートテイキングなど実践トレーニングを繰り返して行うことで、逐次通訳及び同時通訳に必要な能力を鍛えていく。通訳現場に近い雰囲気での授業を行い、通訳のマナー、目指すべきパフォーマンスなどを指導する。	◎	○			
日中同時通訳	2	選択	この授業の目標は次の通りである。 ・日中同時通訳に関する基本的な知識を習得する。 ・ビジネス、外交、政治など様々な場面における同時通訳に関する知識の応用力、実践力を高める。 この授業では、同時通訳技術に関する応用例を挙げて説明するとともに、要人や著名人が実際に行った講演会、スピーチを題材として、それらの内容を同時通訳ブース付きの国際会議室で同時通訳の実習を行うことで、通訳者に必要なスキルをさらに高める。	◎	○			
日英通訳	2	選択	The main aim of the course is to nurture a disciplined attitude toward interpretation, emphasizing the importance of prior preparation, including preparatory meetings with speakers, study of the content of subjects to be interpreted, and the acquisition of technical vocabulary when necessary. Students will be encouraged to achieve competence in consecutive interpretation. This course does not provide training in simultaneous interpretation which is a highly specialized skill. Students wishing to take this course will be required to demonstrate significant skill in both English and Japanese.	◎	○			
通訳実習	2	選択	グローバル化による国際交流はますます盛んになってきた、そのかけ橋の役割を果たすのは言うまでもなく通訳者の存在である。二つの言語を使いこなして二つの言語文化をつなぐ優秀な通訳者になるには、訓練と経験を積み重ねる必要がある。授業を通して通訳技能を身につけて、良い通訳者になることを願っている。 毎回授業でさまざまな通訳資料を取り上げて練習する。例えば文化、経済、社説、文学、記事などに関する内容。と同時に耳の聞く力を鍛えるために、映像などの会話を聞くトレーニングもする。	○			◎	
Curriculum and Materials Design I	2	選択	This course focuses on the essentials of objectives, lesson planning, assessment, materials creation, resources management, and the development of classroom management skills. Classes will be a mix of discussion of the week's readings, in-class activities, and actual practice-teaching sessions.	◎	○			4
Foundations of English Language Teaching	2	選択	The aim of this course to develop students understanding of the fundamental aspects surrounding English language teaching. Students will learn a variety of topics related to language teaching such as how to teach speaking, reading, listening and writing. In addition, students will study methods and strategies to teach vocabulary, grammar and how to assess language learning.	◎	○			4
Curriculum and Materials Design II	2	選択	This course provides a practical understanding of the teaching and learning of the four macroskills, and connects the learning context and learner needs with the communicative purpose of English. Areas covered include the concepts and terminology relating to the teaching of the four skills, the purpose and features of the macroskills, features of written and spoken English, obstacles to learning and improvement, and the teaching of effective learning strategies.	◎	○			4

TESOL分野	English Language Structure Analysis	2	選択	The aim of this course is to improve students' knowledge regarding the structure of English language and how languages are learned. Students will gain an understanding of English language structure in terms of words, sentences, and speech sounds. In addition, students will develop their English teaching knowledge by seeing how language is acquired through first language acquisition, as well as factors that influence second language learning.	◎	○			4
	Practicum	2	選択	This course, for students on the TESOL program, provides further teaching practice and feedback in order to develop their teaching skills in actual classroom settings. Students will accrue practical teaching hours by observing and teaching assigned classes throughout the course. Student-teachers will be responsible for preparation of lesson plans, class materials to be used in the teaching sessions, in addition to conducting lessons, and completing class feedback evaluation forms. The students' lessons will be conducted under observation periodically throughout the course and will be followed by self-evaluation sessions with the observer.	◎	○			4
	Portfolio Compilation and Presentation	2	選択	Students are supposed to compile all experiences, presentations, demo classes and other related work in their portfolios. Lesson plans, teaching materials and assessment framework should include a rationale of the theory underpinning the choices. During the course students will be encouraged to organize the portfolio by writing about the teaching context and their self-evaluation of the activities.	◎	○			4
演習	グローバルコミュニケーション演習Ⅰ	2	必修	まず、各研究分野及び関連領域に関する文献・調査資料を読み、研究テーマと研究目的・課題の設定を行ない、研究計画の骨組みを立てることを目標とする。その上で、収集した先行研究を元に自身の問題意識を明確にし、理論的枠組み・研究対象・研究方法などの概略を決め、上記論文または報告書の作成に向けて一連の準備を進める。各自の研究進捗状況は授業で口頭発表（PPT）という形で報告する。発表者は発表前にレジュメを作成し、ゼミで共有しておく。発表時にはレジュメ内容について議論・検討する。発表後は、振り返りを行なう。		◎	○		
	グローバルコミュニケーション演習Ⅱ	2	必修	各研究分野及び関連領域に関する文献・調査資料をさらに読み込みながら、自身の設定した研究目的・課題を元に、理論的枠組み・研究対象・研究方法などを決め、文献・実地調査の実施をスタートする。同時に、上記論文または報告書の序論から研究概要あたりまでの作成を行なう。各自の研究進捗状況は授業で口頭発表（PPT）という形で報告する。発表者は発表前にレジュメを作成し、ゼミで共有しておく。発表時にはレジュメ内容について議論・検討する。発表後は、振り返りを行なう。		◎	○		
	グローバルコミュニケーション演習Ⅲ	2	必修	中間発表などのスケジュールに沿って、文献・実地調査の実施によって収集したデータに対し、分析・考察を行なう。各自の研究進捗状況は授業で口頭発表（PPT）という形で報告する。修士論文または課題研究報告書の発表内容については、受講者全員で議論し、不足している点を指摘する。発表者は授業で議論された結果を踏まえ、推敲を行ないつつ内容を修正していく。発表後は、振り返りを行なう。		◎	○		
	グローバルコミュニケーション演習Ⅳ	2	必修	論文または課題研究報告書の完成へと指導する。研究テーマ、研究目的・課題、理論的枠組み、研究概要の内容を再確認しつつ、文献・実地調査の結果・考察、終章をまとめる。各自の研究進捗状況は授業で口頭発表（PPT）という形で報告する。修士論文または課題研究報告書の発表内容については、受講者全員で議論し、不足している点を指摘する。発表者は授業で議論・指摘された結果を踏まえ、推敲を行ないつつ内容に修正を行い、上記論文または課題研究報告書の完成に努める。		◎	○		
	インターンシップ	2	選択	インターンシップは院生のキャリア形成に重要な実践教育の一つである。履修者は、大学院で勉強した専門知識と語学力を活かし、企業、公的機関、民間団体などで就業体験をする。そして、社会人としての技能や態度を磨き、修了後の国際舞台での活躍に寄与する。なお、留学生については、日本語能力試験N1取得済みであることを条件とする。事前授業、現場体験、事後授業という3段階に分けて実施する。なお、企業インターンシップ以外に、海外インターンシップ、日本語教授インターンシップにより単位を付与することもある。	○			◎	4
分野共通科目	文献講読	2	選択	この授業は、履修者が日本語で書かれた文献を読みながら、要約の作成や研究の位置づけの理解、資料の扱いなど修士論文等の作成に必要なスキルを学ぶことを目的とする。今年度、主に言語学とその関連分野の文献を教材とし、履修者の専門分野の学びに役立つようにする。なお、履修者は留学生に限定する。	○			◎	
	日本語プレゼンテーション技法	2	選択	プレゼンテーションに関して、主に聴衆や対象者とのコミュニケーションに関する基本要素を学び、さまざまな演習を通じてプレゼンテーションの基礎技術を身につける。さらに効果的なプレゼンテーション資料の作成や、ディスカッションやディベートなどの演習を通じて、グローバルに活躍するためのコミュニケーション能力を養成する。身近な話題から、社会的に議論のある大きなテーマまで、幅広い題材を用いてのプレゼンテーション演習を行い、プレゼンテーションの基本概念と基礎的な技術を学ぶ。さらに、より効果的なプレゼンテーションに向けて、発表や主張したい内容の構造化、独創的なアイデアや着眼点を整理して文章化する知識も習得する。				◎	
	日本語ライティング技法	2	選択	日本語という言語の性格を了解した上で、文章における日本語の役割はどのようなものであるかについて、様々な文献をとおして探求する。また、言語をどうやってうまく文章に表現できるかについても、その表現法におけるテクニックなどに関する知識は、授業でエッセイや小説や詩を通して言語の理解を深め、ライティング技法を身につける。每一回授業で用意した資料を丁寧に説明するとともに、言語と文章の関係性について詳しく説明する。必要の時に言語に関する様々な資料と方法論を読む。				◎	

◎：DP達成のために、特に重要な事項

○：DP達成のために、重要な事項

SDGs 17の目標

1. 貧困をなくす…「あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる」

2. 飢餓をゼロに…「飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」
3. 人々に保健と福祉を…「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」
4. 質の高い教育をみんなに…「すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」
5. ジェンダー平等を実現しよう…「ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う」
6. 安全な水とトイレを世界中に…「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する」
7. エネルギーをみんなに、そしてクリーンに…「すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」
8. 働きがいも経済成長も…「包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する」
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう…「強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る」
10. 人や国の不平等をなくそう…「各国内及び各国間の不平等を是正する」
11. 住み続けられるまちづくりを…「包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する」
12. つくる責任つかう責任…「持続可能な生産消費形態を確保する」
13. 気候変動に具体的な対策を…「気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」
14. 海の豊かさを守ろう…「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する」
15. 陸の豊かさを守ろう…「陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する」
16. 平和と公正をすべての人に…「持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」
17. パートナリシップで目標を達成しよう…「持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する」